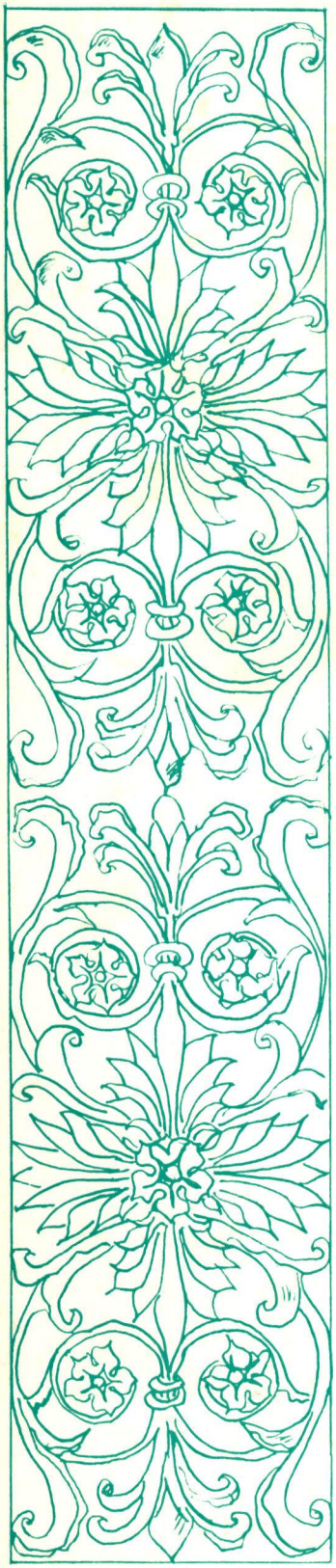
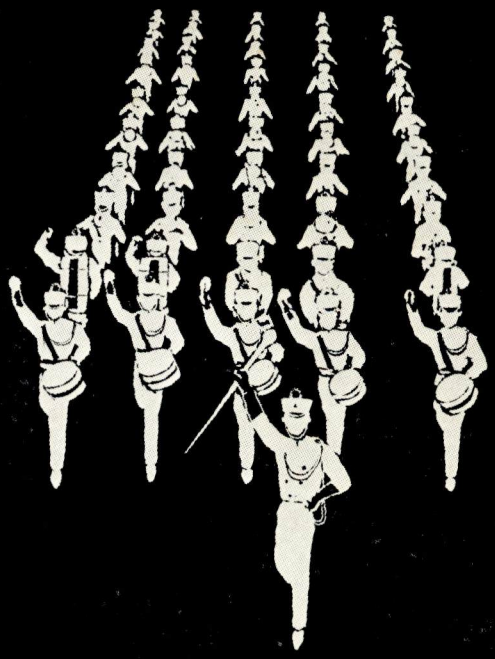


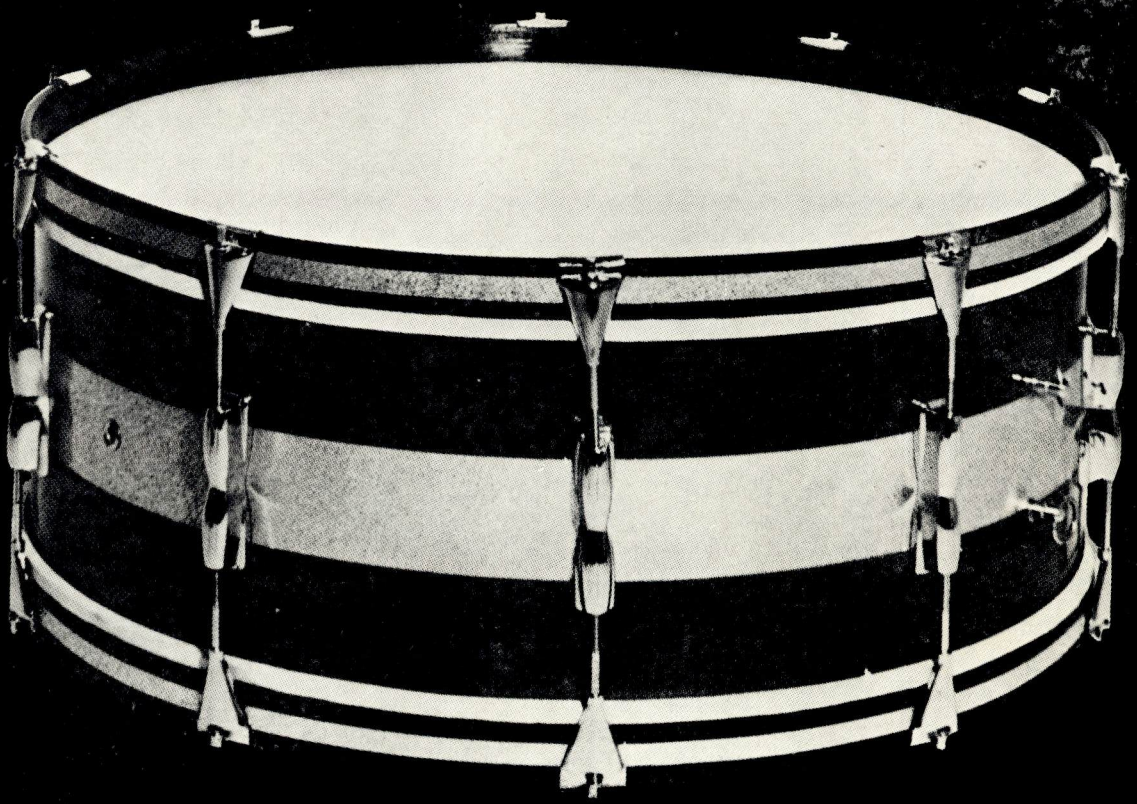
東響・新響

合同演奏会

'68 8.8



GRACY PARADE DRUM



(株) グレイシー楽器

東京都荒川区荒川5～14～8　TEL (802)4734

今夜使用する大太鼓10個は、当社の提供したものです

新交響楽団……東京交響楽団

合同演奏会

指　揮　芥川也寸志
Conductor　YASUSI AKUTAGAWA

秋山和慶
KAZUYOSI AKIYAMA

THE NEW SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO　SYMPHONY　ORCHESTRA
Joint Concert

I　トッカータとフーガ　ニ短調 …… バッハ(ストコフスキー編曲)
Toccata and Fuga D-minor …… Bach-Stkowsky

II　幻想的序曲「ロメオとジュリエット」 …… チャイコフスキー
Roméo et Juliette —— Ouverture-Fantaisie …… P. Tschaikowsky

III　弦楽のための3楽章 …… 芥川也寸志
Triptyque for String Orchestra …… Yasusi Akutagawa

1　速　く
Allegro

2　ゆっくりと——子守唄
Andante con moto——Ninnerella

3　非常に速く、ゆっくりと、非常に速く
Presto, Andante, Presto

IV　交響詩「ローマの松」 …… レスピーギ
Pini di Roma——Poema sinfonico …… Ottorino Respighi

1　ボルジア荘の松
I Pini di Villa Borghese

2　カタコンブの近くの松
Pini presso una Catacomba

3　ジャニコロの松
I Pini del Gianicolo

4　アッピア街道の松
I Pini della via Appia

V　大序曲「1812年」作品49 …… チャイコフスキー
Ouverture Solennelle "1812" op. 49 …… P. Tschaikowsky

東京文化会館大ホール '68　8月8日(木)　7時

芥川也寸志

Yasusi Akutagawa

◇昭和30年11月9日の夕方、港区芝にあった東響練習所の古ぼけたドアが静かにひらかれた。これが、当時「労音アンサンブル」と称していた現「新響」との出会いの一瞬である。その日の練習の結果を“悲しい叫び声に似た響き”としるしている。以来、13年間にわたる新響とのつきあいがはじまった。

今はもうなくなってしまった日本青年館大ホールでなんとか〈運命〉をやった第1回定期から、昨年秋のソビエト演奏旅行まで、新響のゆくところ、必ず彼の姿が見られる。近いところなら愛車シトロエンをとばして、遠ければ自腹で飛行機を乗り継いででも練習場へ定刻に姿を現わす。

長い間、どうしてこのような苦労をしてきたのか、なぜたくさんの時間を新響のために費してきたのか、正直のところ、自分でもよくわからないという。強いていえば、何か駆り立てられるような気持が、新響との間をつないできたのだろう、と述懐する。その気持は、今後も持続されてゆくことだろう。定期会員の獲得と連続定期演奏会の夢に向って。

◇当夜の聴衆諸賢にそのようなことはあるまいと思うが、芥川の名をきいてTV司会者と答える人がいる。まさにTV時代の影響といえるけれども、本職はレッキとした作曲家。昭和24年、東京音楽学校研究科作曲部を卒業。ピアノを井口基成、指揮を金子登、作曲を橋本国彦、下総皖一、伊福部昭に師事した。主要作品には、〈交響三章〉〈交響管弦楽のための音楽〉〈交響曲第一番〉〈弦楽のための三楽章〉〈エローラ交響曲〉〈オペラ・暗い鏡〉〈弦楽オーケストラのための陰画〉などがある。

◇得意な楽器は、ピアノ、ヴァイオリン、サキソホンなど。時に練習場でサックスを小さな音で吹いているのを見かけるが、腕前のほどは、だれも知らないようだ。

文豪、龍之助の三男として東京に生まれた。43歳。以前、音楽よりもかれの声を聞きたくて新響へ出てくるという女性奏者がいたということだが、真疑の程は知らない。



秋　山　和　慶

Kazuyoshi Akiyama

◇優秀な学者が外国――特に米国へ移ってしまう“頭脳流出”なる現象が昨今、問題になっている。音楽家とてもその例外でなく、演奏者、指揮者がぞくぞく海をわたり、実績をあげている。なかには、生活の本拠を外国におくという人さえ少なくなく、音楽を通じ、わが国の名を高からしめていることになる。

ところで、その余波を受けたというわけではないけれども、こんどトロント交響楽団（カナダ）の副指揮者として招かれることになり、きたる10月11日、空路カナダへたつ。来年5月24日までの間、定期演奏会（3種のプログラムにより計6回）を含む、約20回のコンサートでタクトをとる。トロント響といえば、それこそ海外流出組の雄、小沢征爾が常任指揮者となっている。来シーズンは小沢氏の最後のシーズンだが、1年の半分近くは、トロントにいられぬ多忙さなので、手伝うことになったもの。

◇母親が上野の音楽学校出身。そのせいでピアノを習いはじめたが、小さいとき「機械を勉強し、汽車を作りたい」と真剣に考えたという。青山学院中学3年のとき、小沢氏の指揮をきき、感激して桐朋のピアノ科へ転じた。のち、指揮の斉藤教室へうつる。

38年に桐朋を卒業、39年2月、東響でデビュー。好評で東響入りがきまった直後、東響は解散したが、翌年、再建のとき専任指揮者として迎えられた。小さいときから、本邦初演物を手がける東響が好きだったそうだ。

◇好きな作曲家は、モーツアルト、ラベル、ドビュッシー。そして、指揮者ではミュンシュに傾倒している。

趣味は、小さいときの夢をいまだに持ち続けて、汽車の横型づくり。カーキチで、サンダーバードをカミカゼ運転する。桐朋ピアノ科で同級だった圭子夫人の心配のタネとなっている。ふたりの間にはまもなく1歳の誕生日をむかえる男の子がひとり。昭和16年生れ27歳。東京都出身。現住所は、渋谷区神泉町。



曲目解説

今宵のプログラムは，特に大編成のオーケストラによって真にその効果を発揮すると思われるものばかりです。それに，ほとんどの曲にはそれに付随した物語りがついておりますので，絢爛豪華な絵巻物でもひもとくおつもりで楽しんでいただきたいと思います。

Ⅰ「トッカータとフーガ　ニ短調」

バッハ作曲，ストコフスキー編曲

この曲は，バッハの作った同名のオルガン曲をストコフスキーが管弦楽のために編みなおしたもので，すでに映画「ファンタジア」でおなじみのことと思うし，また，日本でもストコフスキー自身の指揮で聞くことができたことは記憶に新しい。バッハはこの曲を，聖トマス寺院の3～5秒という長い残響時間をもつといわれるオルガンのために作曲したが，オーケストラでもその残響の効果を特に低弦のｐｐ（ピアニシモ）によって残すという方法でとり入れている。今回は，寺院の大オルガンにも比すべき大編成のオーケストラで演奏する。

Ⅱ　幻想的序曲「ロメオとジュリエット」

（1880年作品）

チャイコフスキー（1840—1893）

シェイクスピアの戯曲「ロメオとジュリエット」をもとにした作品。しかし序奏とソナタ形式で書かれたこの作品は，劇の内容を離れても，緊張感のあるすぐれた音楽として高く評価されている。

■ **序奏部**　宗教的雰囲気の序奏部は，修道者ローレンスの主題として知られ（楽譜1），ローレンスと主役たちとの関係を表わしている。そして，音楽は来たるべき悲劇へと……。



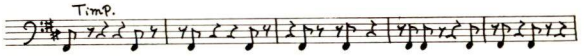
<楽　譜　1>

■ **主　部**　モンタギュー家とキャピュレット家の路上の争いがはじまる。序奏からの発展として，全オーケストラでこの争いの主題が奏される（楽譜2）。両家の家



<楽　譜　2>

来のさわぎだけでなく，両家そのものの不和の様子の表現でもあろう。そして，シンコペーションによる奇妙なリズム（楽譜3）によって，人々が争っている様が目にみえるようである。



<楽　譜　3>

やがて，喧噪もヴェロナの町のどこかへ消えていく。そして，イングリッシュホルンとヴィオラで“愛のテーマ”が奏される（楽譜4）。この部分について，いま隣なりに恋人のいる人には説明の必要はないであろう。次に，弱音器をつけたヴァイオリンによって，第2の愛のテーマが歌われる（楽譜5）。



<楽　譜　4>



<楽　譜　5>

■ **展開部**　各テーマの展開が行なわれて……。

■ **再現部**　争いのテーマ，愛のテーマ，そしてローレンス僧正のテーマがくり返される。そして，恋人たちの死の暗示。オーケストラが愛のテーマを突然うちけし，争いのテーマと僧正のテーマの重なるうちに曲のクライマックスへ達する。

争いの終末の結果，コーダにはいる。

■ **コーダ**　ちぎれちぎれに現われる愛のテーマ。悲劇の結末である。宿命の前には愛も無力なのであろう。

Ⅲ　弦楽のための三楽章 “Triptyque”

（1953年作品）

芥川也寸志（1925～）

この曲は，オーストリアの指揮者クルト・ウェスの依頼で作曲されたもの。初演は1953年12月 カーネギーホールで，クルト・ウェス指揮，ニューヨーク・フィルハーモニー交響楽団の演奏によってなされ，現在でも，アメリカ，ソ連など世界各国で演奏されている。

曲は弦楽オーケストラのために書かれてあり，三つの楽章からなっている。第1楽章は歯切れのよいリズムと独特の洒落に富んだ速い曲，第2楽章は5拍子の美しく歌われる子守歌，その中に日本的なリズムが弦楽器の響板をたたく奏法を用いて現われる。第3楽章は，日本の祭り太鼓のリズムを使った速く楽しい曲である。

日本でも東京交響楽団の演奏によるレコードが発売されており，また，新響も昨年のソ連演奏旅行にもっていって各地で演奏した。いわば，両交響楽団にとってなじみの深い曲といえよう。

Ⅳ　交響詩「ローマの松」　（1914年作品）

レスピーギ（1879—1936）

この交響詩は，休みなく演奏される四つの部分からなっており，おのおのには，作曲者自身の筆で次（ワク内）のように記されている。

1）**ボルジア荘の松**

Allegro vivace ♩=92 (2/8)

高音域の木管楽器と打楽器が子供たちのたわむれを表現する。ホルン，チェロなどが次の跳びはねるような主題を奏する（楽譜1）。



<楽　譜　1>

子供たちが　ボルジア荘の松林で遊んでいる
輪になって踊ったり
兵隊になって　行進したり　戦争ごっこをしたり
つばめのようにきゃっきゃとさわいでいたが　やがて
日暮れとともに家に帰ってしまった　すうっと情景がかわって，

2）**カタコンブの近くの松**　Lento ♩=50 (4/4)

弱音器をつけた低弦のひびきにはじまり，やはり弱音器をつけたトランペットがグレゴリア聖歌の主題を吹く（楽譜2）。



<楽　譜　2>

カタコンブの入口に松の影がさしている
ほこらの奥の方から悲しげな聖歌のうたごえが聞こえて
荘重な讃美歌のこだまとなってあたりにこだます
やがて，それもどこかへ消えて……

3）**ジャニコロの松**　Lento

ピアノのカデンツァ，そしてクラリネットの独奏がつづく（楽譜3）。



<楽　譜　3>

空気をつたわってくる，そこはかとない雰囲気におののく，どこからともなく聞こえてくるナイチンゲールの鳴き声

4）**アッピア街道の松**　Tempo di Marcia ♩=66

低弦，打楽器による行進のリズムが現われ，ついで行進曲の主題はまずクラリネットに現われる（楽譜4）。



<楽　譜　4>

ついで，イングリッシュホルンが追憶の主題（楽譜5）を吹く。

行進曲の主題は，やがて全金管楽器にうつり，圧倒的に



<楽　譜　5>

曲を終わる。

霧深いアッピア街道の夜明け
さびしそうな松並が，憂愁に満ちたこのあたりを見守ってどこからか兵士の足音が……
詩人の頭の中には過ぎ去った栄光がうかび上がる　ラッパの響き　そして朝日のまぶしい光の中をローマの軍団が地響きをあげて
聖街道を　カピトールの丘めざして登っていく。

（作曲者の言葉は，RICORDI版スコアより筆者訳）

V　大序曲「1812年」作品49（1880年作品）

チャイコフスキー（1840—1893）

1812年，ナポレオンの率いる軍隊が大挙モスクワに迫ったが，折から冬将軍の到来となり，命からがら退却，ロシアにとっては空前の戦勝の年となったのである。チャイコフスキーは，この模様を大オーケストラ，教会の鐘，大砲などを用いて効果的に表現し，初演のときから好評をもってむかえられた。

曲は，内容的にみて次の三つの部分からなっている。

① **プロローグ**　最初のLargoの部分ではチェロ，ヴィオラの六重奏によって，ナポレオンの不法な侵入を知ったロシア国民の神への祈りといかりを描いている(楽譜１)。

次いで，オーボエの主題に低弦が呼応し(楽譜２)，民衆は反撃へと立ち上がる。楽譜３は，ロシア軍の行進の模様であろう。

② **ボロジノの激戦とナポレオン軍の敗走**　ヴァイオリンによるボロジノの激戦のテーマ（楽譜４）がはじまり，次にマルセーズのテーマがひびきわたって，ナポレオン軍の強襲が続く。局面は一変して，ロシアの農村の静かな風景がヴァイオリンで奏され（楽譜５），続いてロシア民衆の明かるいおどりの歌が奏されたのち(楽譜６)，ふたたび



<楽　譜　1>



<楽　譜　2>

戦闘が始まる。しかし，こんどは形勢は逆転して，マルセーズは混乱し，ロシア軍の反撃が始まる。そして，ナポレオン軍の敗走。



<楽　譜　3>



<楽　譜　4>



<楽　譜　5>



<楽　譜　6>

③ **フィナーレ**　ロシア国民の勝利の大合唱，ロシア軍の行進と，国歌（楽譜７）の吹奏に祝砲がとどろき，鐘が鳴りひびく中に，この歴史的絵巻物は幕を閉じる。



<楽　譜　7>

（新交響楽団コントラバス　伊賀健一）

新響・次回演奏会予告

第17回定期演奏会 ——モーツァルトの夕べ——

日　時　1968年10月14日（月）午後7時

会　場　虎の門ホール

曲　目　1）歌劇「魔笛」序曲　K. 620

2）交響曲第40番ト短調　K. 550

3）交響曲第41番ハ長調，ジュピター　K. 551

4）モテット「おどれ，喜べ，なんじ幸いなる魂よ」K. 165

演　奏　新交響楽団

指　揮　近衛秀麿（客演）

会　費　500円，400円，300円

新響・ベートーヴェン第9交響曲特別演奏会

日　時　12月23日（月），26日（木）午後7時

会　場　日比谷公会堂　　合　唱　"鯨"　　指　揮　芥　川　也寸志

第162回　東響定期演奏会

9月20日（金）7時　P.M.　東京文化会館

指　揮＝遠　山　信　二　　合　唱＝東京カンマーコーア

独　唱＝片野坂　栄　子・長　野　羊奈子　　宗教音楽研究会合唱団

金　谷　良　三・高　橋　修　一

■ J・S・バッハ……ミサ曲　ロ短調

S＝¥1,200　A＝¥1,000　B＝¥800　C＝¥600

東響名曲演奏会シリーズ……17

9月21日（土）6.30 P. M.　日比谷公会堂

指　揮＝秋　山　和　慶

ピアノ＝コンラート・ハンゼン　　バイオリン＝江　藤　俊　哉

■ モーツァルト……「フィガロの結婚」序曲

■ モーツァルト……ピアノ協奏曲「戴冠式」ニ長調

■ ブラームス……バイオリン協奏曲ニ長調

■ ベルリオーズ……幻想交響曲ハ長調

S＝¥1,300　A＝¥1,000　B＝¥800　C＝¥600　D＝¥400

編成からみたオーケストラの変遷

佐　野　秀　夫

私たちは，世界最初のオーケストラについて，なにも知ることはできない。それは，常に，今日，私たちの聴いているオーケストラのひびきの影に，かすかな予韻を残しているのではあるが……。

中世の時代にも，勿論，器楽の合奏がなかったわけではない。祝典，舞踏会，祭，そして家庭の楽しみとしても，それは存在したであろう。しかし，その頃の楽器の特性として，本来的に音量がとぼしく，また演奏上の不自由さが制約となって，多勢の合奏という形式にはむかなかった。したがって，その形態も，異なる楽器の組合せというよりは，同種の楽器同士の場合が多かった。オーケストラの編成が魅力的になるためには，まず楽器がすぐれたものとならなければなかった。

優れたオーケストレーションを生みだした最初の作曲家の一人，モンテヴェルディが1607年有名な≪オルフェオ≫を書いたとき，彼は40個の楽器からなるオーケストラをもっていた。そのうちわけは，小オルガン2，クラヴィコード2，レガール1，ヴィオラ・ダ・ブラッチョ10，ヴィオラ・ダ・ガンバ1，ポシェット2，大リュート2，その他としてヴァイオリン，フリュート，オーボエ，旧いクラリネットが加わった。これを見てわかるように，その主力はヴィオル属で，またティンパニやドラムも欠けている。しかしこのオーケストラは，今までの人がきいたこともないような音量と劇的な表現力を発揮した。

17世紀を通じて，オーケストラは弦楽器が中心で，管は従としてあつかわれてきた。また，この時代は，ヴァイオリン族の鋭い豊かな表現力が，ヴィオル族を押しのけていく過程でもある。

1700年以後になると声部が4声に一定化が進み，それに従って楽器の用法もかなり個性的になるが，しかし，このころでも楽器の選択は，その声部への適応性の点からだけ——主として音域——考えられていたようで，それは特定のパートを別の楽器で奏しても音楽そのものにはあまり影響がないという点からも明らかである。1723年につくられたJ・S・バッハのカンタータ119番の編成は，トランペット4，ティンパニ2，フルート2，オーボエ3，オーボエ・ダ・カッチア2に，第1，第2ヴァイオリン，ヴィオラそしてコンティヌオ（チェロとオルガンまたはハープシコード）で，各パートが互換性を十分にもっている。ヘンデルは，その点，バッハに比べるとオーケストラ効果については，より鋭敏な感覚をもっていた。彼のオペラやカンタータには，小リコーダー，コントラバスーン，トロンボーン，ハープなどの個性的な使用がしばしばみられる。1734年ヘンデルの≪メサイア≫が演奏された時は，251人のオーケストラが用いられた。また同じ年のウェストミンスター寺院での祝典では，コーラスをのぞいて500人のオーケストラが現れ，それは1787年には806人にまで達した。しかし，こうした多人数のオーケストラは，祭典と儀式の場合の特殊なもので，一般には，もっと少人数の編成が普通であった。大規模な編成が通常化しなかった理由の一つには経済的な問題があるが，一方ではバッソ・コンティヌオによる対位法的な音楽が，こうした大規模な編成に不向きだったことも否定できない。バロックのオーケストラが変化して，今日のオーケストラの原型である古典時代のオーケストラが生れるには，まずバッソ・コンティヌオの放棄——ホモフォニックな音世界が支配的になる必要があった。

それはベルリンやウィーンやマンハイムで，いわゆる前古典派とよばれる人々によって形をととのえていった。その代表例がマンハイムを中心とする作曲家・演奏家グループである。これまでの編成の中に，フルート，オーボエ，クラヴィア，ファゴット，ヴァルトホルン（ビストンなしのホルン），トランペット，ティンパニなどは常備のものとされ，弦の柔軟なメロディに管がハーモニーを担当するホモフォニックな形が流行してきた。またここにいた演奏家達はみなすぐれた技巧をもち，急激なｆｆ，ｐｐ，長い段階的クレッセンドなどを自在に演奏することができた。1776年頃につくられたC・P・E・バッハの交響曲は，フルート2，オーボエ2，バスーン1～2，ホルン2，それに弦五部という形であった。これは，各パートの互換性がない点も含めて，つぎにくる古典派オーケストラにちかいが，しかし，第1，第2ヴァイオリンがユニゾンで演奏する例も多く，まだ前時代のひびきをうけついでいるところも少なくない。マンハイム楽派とよばれる作曲家たち——J・シュターミツ，カンナビヒ，ベック，A・シュターミ

ツなどは，その時代の独創性が，いかに旧い殻をぬぎすてようと努力したかを私たちに教えてくれる。そして，その作品は，18世紀末の時代の気分を十分味わわせてくれる，楽しくも貴重な遺産である。

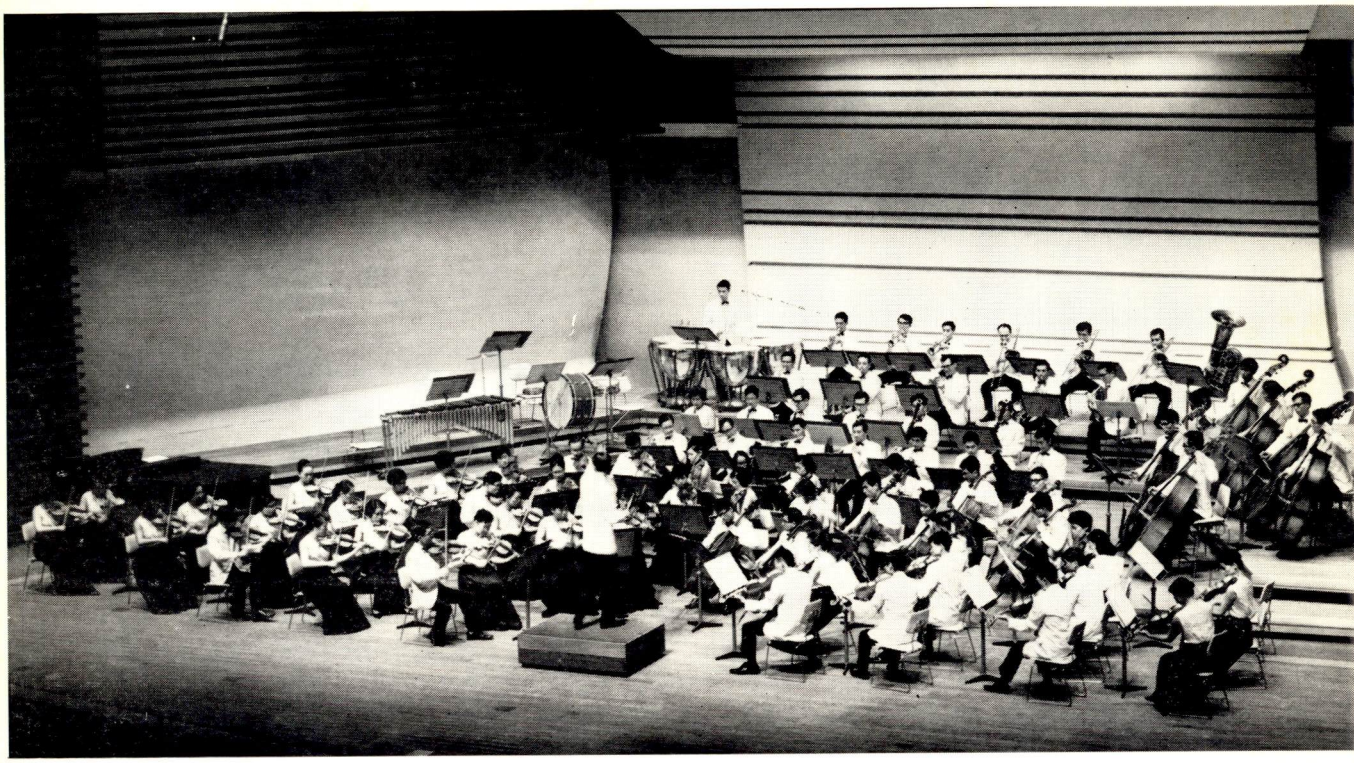
ハイドンが，エステルハーツィ家で指揮していた初期の楽団は，14人からなり，ヴァイオリン5，チェロ1，コントラバス1，フルート1，オーボエ2，ファゴット2，ヴァルトホルン2，オルガン1という編成であった。ここには，とにもかくにも2管編成のオーケストラの形がある。弦楽器の完成にくらべて，管楽器の発達は遅れてはじまった。フルートはベームの改良をみるまでは，演奏しにくい楽器だったし，1690年頃発明されたクラリネットは，モーツァルトがパリ交響曲で用いるまでは，正式なオーケストラ常備の楽器とはいえなかった。またフレンチホルンがヴァルブ式になるのは19世紀になってのことである。これら木管（ホルンはそれに準ずる）楽器は，和音的要素をうけもつとき，一本ずつでは，音色的に調和しにくいために，同種の楽器を2本以上そろえることが一般化していった。こんにちでも，それによってオーケストラの規模を示すのは，ごぞんじのとおりである。ハイドンやモーツァルトが用いたオーケストラは，いつも十分であるといえなかったが，これら作曲家の天才を発揮するのに不十分ではなかった。それは，つづく大作曲家ベートーヴェンにもいえることである。しかし，それにもかかわらずオーケストラはぼうちょうする傾向をたどっていった。それは，一つは芸術の新たなパトロンとして市民階級があらわれてきたことが一つの要因といえよう。公衆のための演奏会は，必然的に大がかりな，多くの人に強く訴えかけるものでなければならなかった。私たちは，そのような例を，ベートーヴェンの≪第九≫のなかにみることができる。

ロマン派が次にやってくる。ここでは楽器それぞれの完成，技術の進歩がより表現の自在さを保証した。ベルリオーズが≪幻想交響曲≫のなかで達成したことは，同時代以後の作曲家に強い影響をあたえずにはおかなかった。彼は楽器の音色の個性的なあつかいをより刻明におしすすめ，劇的なヤマをつくりだした。音色や劇的迫力の追求はまたオーケストラの拡大を意味した。ワーグナーの楽劇≪ニーベルンゲンの指輪≫は4管編成108名のオーケストラを要するし，いわゆる，千人交響曲と称されるマーラーの≪第8≫は5管編成オーケストラを対象としている。初期のヴェーバーの代表的な編成はヴァイオリン第1，第2各10，ヴィオラ5，チェロ5，コントラバス5，2管編成（ホルン3，トランペット2，トロンボーン3，バスチューバ1）だが，それがワーグナーになるとヴァイオリン第1，第2各16，ヴィオラ12，チェロ12，コントラバス8，フルート4，オーボエ3，アルトオーボエ1，クラリネット3，バスクラリネット1，ファゴット3，トランペット3，バスチューバ1，ホルン8，ハープ6といった大規模なものと変化していったのである。ドビュッシーは，楽器の色彩的な用法を新開拓し，さながらオーケストラを一つの＜音のパレット＞としたのであった。

ロマン派のオーケストラの膨張が頂点に達したとき，当然その反省が起ってきた。シェーンベルクの≪グレの歌≫は最大規模のオーケストラを要する曲であるが，作曲者シェーンベルクは，この曲と並行して，わずか15人の奏者からなる≪室内交響曲≫を書いた。この一例としてストラヴィンスキーの≪兵士の物語≫（1918年作）はヴァイオリン1，コントラバス1，クラリネット1，バスーン1，コルネット1，トロンボーン1，8種の打楽器といった編成で効果をあげている。＜新音楽＞時代の風潮，反ロマンティシズムがその中にあるのであろうが，また大戦という経済的な打撃が，そうした編成を余儀なくさせたことも，見過せない。以後，近，現代のオーケストラ編成はますます多様な様相を呈してきつつある。打楽器類の巧みな用法が，いままでみられなかったような楽器の登場をうながしたしまた現代音楽のさまざまな奏法は，オーケストラから新しい響きをひきだそうとする試みの一端である。

オーケストラの編成は，このように楽器，奏法技術，作曲家，音楽的欲求，財政的裏付けなどによって，常に変化してきた。そしてまた，現在も変化しているといえないだろうか。

（音楽評論家）



新交響楽協会

新　交　響　楽　団

▷労音アンサンブル時代（1955年）

新響の前身が労音アンサンブルと呼ばれていたことは，もう指揮者・芥川氏の他，2，3の人しか知らない。

1955年2月，東京労音会員の音楽愛好者，約40名によってこのアンサンブルはスタートした。編成はバラバラながらも，この楽団は労音会員に歓迎され，各地の文化祭などに出演するようになった。ところで，この年の11月，芥川氏が練習場へ姿を現わした。氏と新響とのつながりは，ここにスタートする。

1956年1月，小編成のアンサンブルから本格的なシンフォニーオーケストラへ脱皮することを計画，名称を“新交響楽団”と改めた。

そして，その後，しばらくの間，演奏活動は中止し，芥川氏のきびしいトレーニングを受けることになった。

第1回定期――1957年11月21日，日本青年館で。「運命」ほか。

第2回定期――1958年11月12日，日本青年館で。モーツァルトの交響曲41番ほか。1959年，はじめて会津若松へ演奏旅行に出ている。

▷労音例会出演，第2オーケストラの誕生など

1960年から地方労音の出演依頼に応ずることとなり，上田，熊谷の両労音へ出かけた。

ところで，第2回定期の前後から，メンバーの人員，技術レベルなどに差がめだつようになり，オーケストラを二つに分けることが芥川氏から提案された。結局，1年がかりで実現することになるが，これは同様な波及効果となって現われ，第3オーケストラの誕生，ブラスオーケストラの編成などへと発展する。

東京労音に出演――1962年4月。

第九交響曲演奏――1963年12月，東京労音例会で第九を5回演奏。

北海道演奏旅行――1964年4月。

四国演奏旅行――1965年4月。

▷新交響楽協会設立，労音から分離

新響はそのときまで東京労音のバックアップで運営されてきたが，労音側と意見が対立。ついに，1966年3月，新交響楽協会を設立して，自主独立の道を歩むことになった。

その後，1966年9～12月にわたる，ベートーベン交響曲全曲の連続演奏会を行ない，1967年9月～10月にかけて実施したソ連演奏旅行というアマチュアオーケストラとしては前代未聞の壮挙をなしとげた。社会人，学生からなるユニークなこのシンフォニーオーケストラは，過去の実績を土台にし，未知の分野に挑もうとしている。



東京交響楽団

1945年，結成された東宝交響楽団が当オーケストラの前身である。のち，1951年，現在の東京交響楽団に改称した。

1956年，財団法人の認可をうけ，各方面との提携のもとに活発な活動をつづけ隆盛をきわめた。しかし，1964年，不幸な事件で，活動をいったん中止した。

その後，楽団員の結束により，翌年みごとに再建され，栄誉ある歴史と伝統を継承することができた。そして，1965年3月から復活された定期演奏会を含め，幅広い活動をつづけている。

現在，100名余のメンバーを擁し，レニングラードフィルの常任指揮者・アルビド・ヤンソンス氏を名誉指揮者に，また，常任指揮者に秋山和慶をむかえ，きわめて広いレパートリーを有している。

なお，「題名のない音楽会」をはじめ，数種のユニークなテレビ番組にも出演するなど，新鮮な企画とその演奏ぶりは，各方面から賛辞をもってむかえられている。

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

音楽監督　秋山和慶　　代表　中山嘉典
常任指揮者　A・ヤンソンス　　副代表　常盤俊雄
名誉指揮者

Concert Masters	鳩山　寛　徳永二男　△杉谷隆興
Violins	麻生紗千子　伊藤武英　磯部満子　池田　鉄　△今獅々芙士子
	上野道子　岡谷良雄　奥村千枝子　大磯千代　金山茂人
	金沢祐久　神谷淳子　亀山修二　北住興子　古井戸美保子
	佐藤文英　杉本　健　高浜　剛　田中まさみ　館野京子
	中山朋子　二宮慧子　日比豊之輔　日比順子　△藤沢一彦
	古尾谷操　丸山節子　水野稔雄　山崎笙子　森島松実
	○中塚和良
Violas	海老原俊一　滝川　広　谷沢広司　中山朋子　花井　章
	原田定矩　中村あつぎ　宮崎由起子　渡辺八界　○田中秀雄
	○田辺弘雄　○桂　哲郎
Cellos	佐々木昭　北原輝夫　△館野英司　原田喜一　△原田禎夫
	福島哲郎　堀　浩　升田俊樹　山口弥吉　柳田敏也
Double Basses	大川慎也　佐々木正治　仙石正志　常盤俊雄　鶉巣純男
	中沢久矩　及川隆章　姫崎正雄　○半谷吉五郎
Flutes	旭　孝　中山嘉典　佐々木真　相馬　充　星山竜二
	安田大二
Oboes	藤本和夫　三浦正信　森下博美　佐藤哲夫
E-Horn	三浦正信
Clarinets	宇都　実　大森　勇　北爪利世　橋本公佑　森田利明
	△村井祐児　○佐瀬富雄
Eb-Clarinet	宇都　実
Bass-Clarinet	橋本公佑
Saxophone	乙部春彦
Bassoons	太田佐武郎　鈴木三郎　森　正彦　山下芳彦　○長谷川寿夫
C. Bassoon	鈴木三郎
Horns	梅田　学　沖川康宏　後藤礼治　沢田清春　塩沢準三
	志摩良二　松村正春　△守山光三
Trumpets	上原紘一　桂　進三　笹沼　宏　中木十郎　持丸勝彦
T ombones	杉園忠雄　高橋重孝　野村外茂治　春山和雄　山元　勲
Bass Trombone	野村外茂治
Tuba	田中真輔
Timpani & Percussions	新井　汎　佐藤恭一　白石健二　芹沢英雄　山崎竜男
Harp	張谷恭子
Piano	遠藤永子
Inspectors	藤本和夫　金山茂人
Librarians	丹下吉太郎　富士川公明
Stage Manager	田中正二

△留学中　○団友　(50音順)

東京交響楽団
東京都新宿区百人町3—360
TEL (369) 1393・9020

東京一商品の豊富な

カワイ渋谷ショップ

〔六　階〕　カワイ音楽教室……ピアノ，電子オルガン，管・弦・打楽器，琴の各教室。
随時，入会可能。

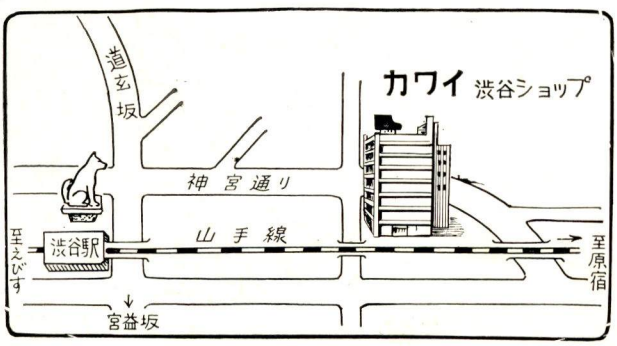
〔三，七階〕　ミュージックサロン……小音楽会，リハーサルに最適。
附帯設備あり。

〔二　階〕　カワイピアノ……グランド・アップライトピアノ各種，電子オルガン，リードオルガン

〔中二階〕　楽譜，音楽書……国内版，輸入版（ペーター，ブライトコップ，カールフィッシャーほか）

〔一　階〕　管・弦・打楽器……国内，輸入品各種。
オーディオ製品……パイオニア，トリオ，山水，ソニーなど各メーカー。
レコード……クラシック，ポピュラー，邦楽ほか。
和楽器……琴，三味線

☆　各商品とも1万円台より最高24回まで分割可能
☆　冷房完備
☆　各商品お買徳な展示即売会を随時実施
☆　ＪＣＢ加盟店
☆　お気軽にご来店またはお電話ください。係員一同親身にご相談に応じます。また必要な資料を差上げます。



渋谷区神宮通1—16

TEL（463）7741～5

営業時間

A.M. 10.30～P.M. 6.30

（第1，2，3各木曜日は休日）

☆渋谷駅ハチ公口より10分

（西武シブヤ店筋向い）